

# 2016 年度 センター試験 生物基礎 (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 2 科目で 60 分

|              |             |                    |
|--------------|-------------|--------------------|
| 大問数・解答数      | 大問数：3 題     | 解答数：17 問           |
| 難易度の変化 (対昨年) | ○ 難化 ● やや難化 | ○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化 |
| 問題の分量 (対昨年)  | ○ 増加        | ● 変化なし ○ 減少        |
| 出題分野の変化      | ○ あり        | ● なし               |
| 出題形式の変化      | ○ あり        | ● なし               |
| 新傾向の問題       | ● あり        | ○ なし               |

### 総評

昨年度は実験結果やグラフから考察を求めるような出題は無かったが、今年度は実験結果から代謝の過程を推測させる問題や、グラフをもとに個体数の増減の理由を考えさせるような出題があった。計算問題も昨年同様 1 題の出題であったが、表の数値をもとにしつつ推論も含めて計算することが求められる問題であった。

生物基礎に費やす時間を 30 分と仮定した場合、問題の量は妥当であったと思われるが、考察問題の出題があったことと、計算問題に手間取る可能性があったことを考慮すると、昨年度と比べてやや難化したと言える。

## 大問別分析

| 大問    | 出題分野・テーマ                 | 配点   | コメント   |
|-------|--------------------------|------|--|
| 第 1 問 | A: 細胞と代謝<br>B: 遺伝子       | 19 点 | A は代謝や物質に関する問題であったが、実験結果を考察する問題が含まれていた。<br>B は遺伝子に関する問題であったが、教科書に基づいた基本的な問題であった。 |
| 第 2 問 | A: 生物の体内環境<br>B: 生物の体内環境 | 16 点 | A は肝臓や腎臓などに関する問題であったが、計算問題が含まれていた。<br>B は血液循環や恒常性維持のしくみについて問われていた。               |
| 第 3 問 | A: バイオーム<br>B: 生態系       | 15 点 | A はバイオームに関する問題で、主に低緯度の熱帯地域に関する問題であった。<br>B は生態系に関する問題であったが、グラフに関する問題が含まれていた。     |